

2020.11.18.

「広域支援団体連携推進について」

- A**
1. 参加団体の自己紹介
  2. 相互連携の紹介
  3. 報謝の紹介
  4. 参加団体から
  5. 災害対応のための連携構築

- ①**  
**②** 被災地
- ・2014年頃から始まった
  - ②が「自治体」地域の集
  - 「多様な世代が」といっての役割を担い
  - (これは「距離感」といって)
  - 支えあう自立した地域

情報共有/情報整理 検証  
情報発信 及び 協働のアクション

- ・平時と災害時の支援の役割
- ・仮設: 5年後の宮城県と想定
- 「宮城県広域支援団体連携会議」
- ネットワーキング → 平時支援の「及」み」

令和年台風19号被災  
\* (避難期間)の連携の難し  
再認識

- ③** 報謝
- 今後の規模拡大に向けて
1. 連携体制の構築
  2. 役割分担の整理
  3. 平時の関係性の再考

誰の  
ための  
連携構築

- ・平時の役割の再考が必要
- ・被災当事者のため } 平時に活躍する  
支援者との関係性
- ・中間支援機能 → 果たせる再考
- ・地域コミュニティの支援
- ・子世〜大人世の役割の再考
- ・広域圏のつながりの普及の必要性
- ・「見知らぬ者」同士での連携  
信頼関係づくり
- ・同じ災害被災経験者同士で連携  
100%の連携を構築
- ・被災者の情報発信 = ネットワークの  
E-S&S

# 被災者支援分野

## 5) 災害対応のための(連携体制)構築

被災者ボランティア等  
協力体制 参加団体

再構築・再検討

(大規模災害時)

市町村と連携の立ち

・協力団体間の関係の不足

団体が持っている力を発揮しにくい

・県社協と県とNPO - 密着不足

自覚の不足

Voは市町に連携するの現状  
県と連携するのは、おこぼれ

「かかろい」をどう活かすか

・県域ネットワーク

・県域の地域課題をどう把握できるか?

初発の情報収集、発信

多様な視点

・県社協が把握(担当)すべき多様な

「Vo」の視点 = 丁寧な機能・活用

現場が見る被災Voは?

連絡会議

(運営事務局)  
構成する運営委員会

調整する機能

市町村社協 → 多様な支援を活動の役割がある

意思決定にも  
参加できる

様々 実態は……

■ 平時につらづくには…… (大卒にUターン  
あつては、機能)

- 被災者支援に目を向ける
- 連絡会議の活性化
- 平時の役割分担の再考
- 担い手のマインド、価値観の共有
- “担当者” “組織” 育成
- 支援のゴール観の共有の機会・場
- 研修、勉強会の活用
- “ふたご” の学び・検証

人材育成  
関係構築

- ・ 初発の情報収集・整理
- ・ 多様な視点 共有
- ・ 役割分担
- ・ 情報共有会議 (場)
- ・ “誰か”  
どう機能させるか